



NEWS

2011 No.244

7月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

リサイクル部品の保証基準、品質基準を業界12団体で共通化

節約志向を強めるユーザーニーズにマッチ リユース促進でリサイクル部品の 位置付けが変わり始める



長年の懸案だった自動車リサイクル部品の「保証基準」「品質基準」の共通化が実現しました。

整備事業者の皆様にとって、これまで以上にリサイクル部品をお客様に勧めることができる環境が整いました。

リサイクル部品の品質保証があることを積極的にエンドユーザーに訴えてください。お客様も高い関心を示すはずです。



保証基準、品質基準の業界共通化で価値が高まるリサイクル部品

リサイクル部品の保証基準、品質基準の共通化は、私たちNGP協同組合も加盟する日本自動車リサイクル部品協議会の傘下12団体で実現したもので、5月15日から正式にスタートしました。

保証基準としては、エンジン・ミッションの主要機能部品、準主要機能部品、その他の部品、外装・内装部品の4つのカテゴリーに分け、代品交換や返金に応じる期間、走行距離を定めるとともに、主要機能部品、準主要機能部品について整備事業者の皆様には組み換え工賃の保証をすることを明示しました。また品質基準としてそれぞれの部品ごとにチェックするポイントを共通化しました。

しかし、共通化した基準は業界の最低基準です。例えば、NGP協同組合はエンジン・ミッションについて「6ヶ月1万km」というさらに高い保証を従来から設けていますが、これらの基準には変わりありません。詳しいことは

NGP協同組合のフロント、営業マンにお問い合わせください。

NGP協同組合としてはこれまでもリサイクル部品の品質確保に努力し、保証もしてきました。その意味で大きな変化はないのですが、業界で共通化できたことが、大きなインパクトになろうとしています。

まず損害保険協会が保証基準、品質基準の共通化に大きな関心を示しています。損保各社は今年、一斉に保険料の改定を始めました。保険の顧客が減少して収支のバランスが取れなくなったことが原因で、リサイクル部品を使うことで支払う保険料を抑制できないかと考えているようです。利用拡大を模索している時にタイミング良く基準共通化が図れたこととなります。これから損保協会と話し合い、リサイクル部品利用拡大の道を探ることになっています。

一方、あるシステム会社では、整備事業の

経営支援システムでも、事故車修理で入庫したお客様に新品部品とリサイクル部品との両方の見積もりを提示するシステムが登場しようとしています。従来から比較見積もりは行われていましたが、最新システムはタブレット型パソコンを使ってリアルタイムでお客様と見積もり、商談をするシステムになっています。

これなども保証基準、品質基準が共通化されることを前提に開発がすすめられたと思われます。リアルタイムの在庫データは、ほとんどの部品が写真付きで登録されています。商品を確認して購入し、しかも保証がはっきりしているとなれば、節約志向を強めているエンドユーザーのお客さまは「リサイクル部品で…」と要望するはずです。

しかし、まだ多くのエンドユーザーはリサイクル部品が存在していることを知らないようですし、リユース市場に回った純正部品であるという認識も持っていないことがあります。まず、保証と品質基準が共通化してあることをお客様に説明し、リサイクル部品の利用促進を進めることを整備事業者の皆様をお願いしたいと思っています。

中古車、使用済自動車ともに発生が減少し、価格が高値の水準にあります。NGP協同組合は、厳しい市場環境の中で懸命に努力をしてより良いリサイクル部品の提供に努めて行きたいと考えています。整備事業者の皆様におかれましては、循環型社会形成のために廃車回収の面でもご協力をいただければ、大変ありがたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

第32回オートサービスショーに見る傾向

ハイブリッド整備とスキャンツールの利用が今後の整備事業のカギに

「第32回オートサービスショー2011」が6月17～19日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催されました。スキャンツールばかりでなく、「お客様とのインターフェイス」といった接客場面の情報端末活用もあり、自動車整備の世界のデジタル化が進んでいました。



今回のショーは、2007年の第31回ショー以来4年ぶりに開催されました。2009年に開催する予定でしたが、前年のリーマンショックがもたらした不況で延期されたからです。この間、自動車の電子制御は一段と進み、2008年10月以降の新車に車載故障診断装置「J-OBDD2」の装着が義務付けられたこともあり、自動車整備には車両側の情報を読み取るスキャンツールが不可欠になっています。大手機械工具商社はこの売り込みを積極的に行っていました。

想定する入庫対象車両は「エコカー補助金」以降急速に保有が拡大したハイブリッド車です。パンザイがブース内に設けたスキャンツールによる診断・整備の実演コーナー、安全自動車のエコカー整備の展示などでハイブリッド車整備をPRしていました。

また、故障診断装置だけでなくタイヤにも空気圧モニタリングシステムが装備されており、車種によってタイヤ交換後に再度IDをセンサーに登録する必要があるものが出てきました。まだごく一部の車種ですが、そのための専用ツールも開発されており、スキャンツールがなければ、手も足も出ない時代に向かっていくようでした。

スキャンツール自体も小型化が進み、扱いやすくなりました。麗々しく車両からデータを読み取るのではなく、読み取ったデータをもとにお客様とどのように商談を進めるかがこれからの整備事業では腕の見せ所になります。スナップオン・ツールズはスキャンツールとともに読み取ったデータを印字してお客様に見せるための専用紙を作り、商談を進めるといったビジネス提案を行っていました。

それをさらに進めると、「お客様とのインターフェイス」になります。車両状態の情報だけでなく、修理に必要な部品代金で新品を使うのとリサイクル部品を使うのと金額はどのように違うのか、必要なリサイクル部品がすぐに手に入るかどうか、などがリアルタイムでわかればお客様との商談も進めやすくなります。タブレット型パソコンやスマートフォンなどとモバイル端末の種類も増えています。システム開発会社のブロードリーフなどが、そうしたビジネス提案を行っていました。

ショーにはNGP 協同組合に加盟するユーザーパーツも出展、バッテリーリカバリーシステムやエンジンテスターの「かけるくん3」の整備関連機器を展示しました。また、東日本大震災後に開発した非常用電源の新製品「便利な照明君」で防災対策を訴えていました。



スキャンツールでハイブリッド車整備が時代の流れ、安全自動車も積極的にPR



専用の愛車点検シートの小道具を用意したスナップオンのスキャンツール



モバイル端末でデジタル時代の接客を訴えたブロードリーフ



ユーザーパーツは整備関連機器から防災用の非常用電源を展示した

ブリヂストンがランフラットタイヤの市販を開始

燃費向上でスペアタイヤレス化が広がる可能性

ブリヂストンが7月1日からランフラットタイヤ「ポテンザ S001RFT」の市販を始めました。ランフラットタイヤは、パンクしても安全な場所まで所定のスピードで安定走行ができるタイヤです。

販売するのは「サイド補強式」と呼ばれるタイプで、タイヤの空気圧がゼロになったとき、硬くしたタイヤサイド部で車重を支える構造になっています。硬いと乗り心地は悪くなりますが、同社は2年前に発熱を抑える新しいサイド補強ゴムを開発するなどで乗り心地を大幅に改善した「第3世代」のランフラットタイヤを商品化し、新車装着用に自動車メーカーに売り込みを進めていました。日産「GT-R」、BMW「X6」などに装備されたほか、スズキ「ワゴンR」にオプション設

定されています。

パンクで空気圧ゼロとなったときに時速80kmで80km走行できることがランフラットタイヤのISO基準となっています。ランフラットタイヤ装着車は、スペアタイヤを搭載する必要がないので、CO₂排出削減に効果的な軽量化につながります。通常5本のタイヤが4本で済み、省資源化できます。

販売サイズは195 / 55RF16 87V ~ 245 / 40RF18 93Wまでの4サイズ。装着するにはタイヤ空気圧モニタリングシステム(TPMS)、専用のアルミホイールが必要になりますが、市販タイヤでもランフラットタイヤの人気が出るのかは注目されることです。ラン

フラットタイヤの需要が高まればタイヤ整備も侮れず、タイヤ空気圧センサーへの対応など電子化対応を進める必要が出てきます。

発売したランフラットタイヤ「POTENZA S001」の構造図



根強い人気のハイブリッド車

ユーザーに燃費重視のモデル選びが強まる

ハイブリッド車の人気が続いています。東日本大震災の直後にガソリンが入手できなかった記憶も生々しく、ユーザーはとにかく燃費の良い車を選ぶという傾向が強まっているようです。トヨタ自動車が5月13日に発売した「プリウスα(ワゴン)」は月販3000台の目標に対して、1カ月間で5万2千台を超える受注があり、納車は1年待ちという状態になりました。追いかけるようにホンダが6月16日に発売したコンパクト

トワゴン「フィットシャトル」も事前に受注したうちの85%がハイブリッド車ということです。

何といっても燃費性能が良いことがハイブリッドの魅力です。実燃費に近いJC08モードでプリウスαがリッター当たり26.2km、フィットシャトルが同25.0kmとなります。ガソリン価格は5月中旬から6月にかけて一時期よりも多少下がりはしましたが、全体的には高値に張りついています。いわゆる

「1000円高速」も6月19日で打ち切れ、家計の防衛のために、燃費性能の良い車で節約することが求められています。

ハイブリッド人気は乗用車に留まりません。日野自動車は7月2日に発売した小型トラック新型「デュトロ」で節約志向の高まりを受けて、ハイブリッド車比率を前モデルの1割弱から3割超に引き上げるという目標を掲げました。実燃費を旧型車に比べて50%以上向上したこともあり、先進国・地域ならば販売

台数の半分以上をハイブリッド車にできると分析しているようです。

東日本大震災で途切れた国内自動車生産のサプライチェーンですが、予想以上に早く回復しています。9月以降各社順調にフル生産を迎えることができる見通しです。生産のけん引役はハイブリッド車に代表される燃費性能の高いモデルのようです。



納車は1年待ちのプリウスαとHVの受注が8割を超えたフィットシャトル

NGP 今月のCO₂削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成23年5月: **6,399 t**

NGP 1月からの累計:

32,973 t (全12団体 1月からの累計 **58,643 t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成23年5月:

13.5 t

NGP 1月からの累計:

50.3 t

※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

※ リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

※ リターナブル梱包材はドア・フェンダー用に加えて2月よりバンパー用の運用を開始しました。

第12回ハイブリッドカーセミナー、第6回生産STEP UP研修会を開催 車両最新メカニクと車体整備の最新事情を学ぶ絶好機会

第12回ハイブリッドカーセミナーが6月13、14日の2日間、第6回生産STEP UP研修会が6月14～16日の3日間、いずれも静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和損害保険自動車研究所東富士センターで開かれました。最新の車両メカニズムを学ぶハイブリッドカーセミナーの参加者は8人、車体構造の復元修理や車両構造の基礎的メカニズムを学ぶ生産STEP UP研修会には6人が参加。また5人が両研修を連続受講し、短期集中した効率的な研修を受けました。

そうした1人、西日本オートリサイクルの甲斐田耕司さんは、「ハイブリッドカーが

非常に難しい構造であることを改めて認識し、街中を多数のハイブリッドカーが走っている現実から「ハイブリッドに関する知識、技術向上は避けて通れない」との感想を持ちました。生産STEP UP研修では「部品の一つひとつが機能性、安全性などに緻密に計算され作られており、これを確実に理解していないとお客さまからの信頼を失いかねない」と自分を戒めました。

共伸商会の坂上大さんは「手動遮断、自動遮断の安全対策で感電の可能性がなくなることを知った半面、間違った扱いをすると危ないことも知りました」、「ハイドロブースターの実習で負圧がなくなるとどう

なるかを体験し、正確なチェックの必要性を学びました」などと、最新エコカーの安全対策から部品生産の基礎的知識をしっかりと心に刻みました。

エコパーツ岐阜の白木章裕さんはハイブリッドカーに対する苦手意識を克服、入庫したときには「まず安全状態を確保して、絶縁手袋して作業したい」と最新メカを扱う際の正しい手順を確認しました。また、生産STEP UP研修で「パネル商品に関してお客様目線で形状を記録し、信頼できる商品を1点でも多く提供できるようにしたい」と、お客様目線で部品生産に取り組む大切さを理解することができました。



最新メカに実際に触れて学ぶハイブリッドカーセミナー



板金塗装工場の調色室の様子も垣間見る生産STEP UP研修



DVDで事故車修理の見積りの基本を学習

ISO9001サーベイランス(定期審査)を受審 品質のレベル向上と徹底を図り、 お客様の満足度を強化

品質マネジメントの国際規格ISO9001の定期審査が6月28日、東京都港区高輪のNGP本部で行われました。大橋岳彦理事長、宮地康弘専務理事など本部役員が出席して審査を受け、認証を更新できる見込みとなりました。

NGP 協同組合は2007年9月、取り組んでいるリサイクル部品の生産から販売まで

の業務を国際基準に沿った品質管理体制で管理するため、システム運営を行っている本部が代表してISO9001の認証を取得しました。これによりお客様の立場に立った品質確保の取り組みを強化するとともに、品質管理レベルのさらなる向上をめざしています。

外部監査での指摘をもとに、毎月1回幹部職員が必ず顔をそろえるISO社内定期会合

を開催するようにしました。またNGPシステムの開発状況を「見える化」した図表を作成し、配布しました。ISO9001は本部が代表して取得しましたが、より高い品質レベルを維持するためには、組合全体での情報共有が欠かせないと考えているからです。今後も、組織全体がひとつになって品質向上を進めることができるよう、さまざまな活動を展開していきます。



大橋理事長以下、本部スタッフが緊張して臨む

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
南関東	ユーパーツ千葉店	移転	〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央1丁目10-7 日進中央ビル7F (電話・FAXに変更はありません)	23年6月17日
北海道	釧路オートリサイクル株式会社	会社代表	代表取締役社長 松本裕之	23年6月20日
九州	WARC西日本オートリサイクル(株)	会社代表	代表取締役社長 高野博範	23年6月30日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp